

令和8年度第4回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会会議録

1 日 時 令和8年7月24日（金）午後6時30分～7時15分

2 場 所 狛江市防災センター4階会議室

3 出席者 副委員長 常盤 豊 （学識経験者）
委 員 惣川 ひさえ（市民委員）
委 員 泉 あや子 （市民委員）
事務局 中村 貞夫 （学校教育課長）
田邊 勇貴 （学校教育課教育庶務係長）
藤田 真衣 （学校教育課教育庶務係）

4 欠席者 委 員 長 渡辺 秀貴 （学識経験者）

5 傍聴者 なし

6 議 題

- （1）令和8年度狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会答申について
- （2）その他

7 会議概要

副委員長 これより、令和8年度第4回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を開催する。

まずは事務局から、本日の資料の確認をお願いします。

事務局 本日は委員長欠席のため、副委員長に委員長代理をお願いしている。

（事務局より資料確認）

副委員長 次第に従い、議事を進める。

議題1「令和8年度狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会答申について」、審議する。事務局より説明をお願いします。

(事務局より資料に基づき概要説明)

事務局 なお、委員長からは文言の修正があったが、答申内容については問題ないとの意見をいただいている。

副委員長 それでは、資料の答申案について、意見を伺いたい。

惣川委員 評価基準を見直したことは、とても良かった。これまでは、現状維持にしなければならぬかのような後ろ向きな様子であったが、改善されたと思う。委員会の時期を前倒しし、次年度の予算編成に自己点検及び再評価の内容を反映することが可能となった点も良かったと思う。

また、再評価項目である子どもの人権について感じたこととして、人権というと被害者の尊厳に注目されがちだが、加害者も自分の尊厳を手放していることにも注目し、加害者の尊厳も同時に見てほしいと思う。一概に「いじめをしたから悪い」とするのではなく、そのような行為をしたことにより、自分自身の尊厳を守ることができなかったという意識を持つことが重要である。自分への尊厳の大切さを、子どもたちには理解してほしい。出前授業で学校に行く際には、「私たちもあなたたちも大切な人間である」ということを、会話の中でさりげなく伝えていきたい。

また、DXについては、先生が理解して指導するのは難しい分野でもあるので、場合によっては、専門の方を招くなどの対応もあると思う。プログラミング等の授業を行うこと自体は賛成であり、大切な取組だと思うので、予算化を検討していただけると良いのではないかと。

泉委員 答申案については、この内容で問題ないと思う。子どもの人権として、いじめ問題では、いじめられた側のサポートは表に出てくるが、いじめた側のサポートについては、どのようなサポートをしているかが中々表に出てきづらい。いじめた側にも、その子の特性や家庭環境などの理由があると思うので、いじめた側に対してもサポートするような取組があると良いと感じた。

副委員長 答申案の内容については問題ないと思うが、記載の順序について、5ページ冒頭に「(3) 審査委員会の所感」とあるが、「2 令和8年度再評価対象の教育委員会における自己点検及び評価の結果」の項目として入っているので、「3 再評価の結果」の冒頭に記載するほうが適切ではないかと思う。

次年度の予算編成に自己点検及び再評価の内容を反映できるようになったので、その内容と、本委員会の意見を次年度予算に反映していただけるとありが

たい。

また、第1回会議でお願いしたA評価事業の評価理由をまとめた資料を作成いただいたので、次年度以降、A評価とB評価の境目をどう設定するのか、教育委員会の中で意見交換をしていただく際の一つの材料としてご活用いただきたい。評価はとても大切なことだが、評価にエネルギーを使いすぎて、肝心の事業の実施が疎かになってはいけないので、負担の無い範囲で、合理的に進めていただきたい。

委員から意見があった、加害者の尊厳といじめた側のサポートは、とても大切な視点だと感じた。これから答申に反映することは難しいと思うが、担当課にも意見を共有いただきたい。

副委員長 答申の最終的な文言整理については、委員長と事務局に一任したいと思うが、よろしいか。

(了承)

副委員長 それでは、議題1はこれで終了する。本日いただいた意見を踏まえ、委員長と事務局で文言整理を行っていただき、この審査委員会からの答申書としたい。本日は今年度最後の会議になるので、最後に一言ずつ感想を伺いたい。

惣川委員 昨今の世界情勢の中でも、子どもたちは塾、遊び、友達との関係など様々なことがあり、命について考える時間が足りていないのではないかと。子どもたちが無事に大人になってくれるのかすら不安になってくる時代である。そのような中で、やはり根本となるのは教育であり、どのような教育をしていくかが大切である。

また、自分の興味のある情報だけが次々に入ってくる時代で、教育委員会がどのような教育をしているのか、子どもを育てる親世代に伝わっていないことを実感している。なぜ伝わっていないのかを分析し、狛江市の教育方針を繰り返し伝えていく必要があると思う。

泉委員 教育委員会の業務が多岐に渡っていることを知る機会となった。自分が子育てをしていた時代より、今の保護者は子どもへの関心が薄くなっていると感じる時もあり、そのような中で苦勞されているのだらうと思うので、エールを送りたいと思う。

副委員長 毎年感じることはあるが、限られた人員体制の中で、教育委員会が幅広い

業務を行っており大変だなということは、今年も感じたところである。扱っている事柄が多いので、変化が激しい世の中で、狛江市の教育全体の方向性を示すことが難しくなっていると思う。

急速にデジタル化も進んでおり、タブレット端末の使用等はもちろん必要なことであるが、反対に今度は、五感や体感などの根本的なことが重要になるのではないかと感じており、そのような根本を鍛える視点も忘れないでほしいと思う。

それから、不登校の問題は象徴的な問題であり、義務教育である小・中学校に来ることができない子どもたちが大勢いるという状況は、決して看過できない。先進的な教育をすることも良いが、多くの子どもたちが尊厳を持って学校に通える状況を作ることが、一番の優先事項ではないか。子どもたちが学校に通える状況を整える際にも、先述した五感や体感といった根本的なことが重要になると思う。

また、最近では職場での繋がりや地域での繋がり希薄になってきており、小・中学生の頃からの繋がり貴重で価値あるものになってくると思う。学校の役割として、学力向上の機能も重要だが、居場所としての機能も非常に重要であるので、その点も注視していただきたい。

副委員長 続いて、議題2「その他」について、事務局から何かあるか。

(なし)

副委員長 これにて令和8年度第4回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を終了する。